

認知症サミット日本後続イベント —新たなケアと予防のモデル—

福祉用具・介護ロボットの 開発及び普及に関する取り組み

平成26年11月6日(木) トピック3

公益財団法人テクノエイド協会
企画部 五島清国

現状・課題

要介護者について

- 要介護高齢者の増加
- ニーズの多様化・複雑化
- 認知症高齢者の増加
- 高齢者世帯や高齢者独居の増加
- ADLやQOLの維持・向上 など

介護分野の人材について

- 介護人材の確保
- 職員の腰痛
- 働きやすい職場環境の構築 など

日本再興戦略

ロボット介護機器開発5ヵ年計画

- 高齢者や障害者の自立支援の促進
- 介護者の負担軽減

実用性の高いロボット介護機器の開発を加速化させる開発5ヵ年計画を実施する

開発されたロボット介護機器を積極的に活用することで、自立支援の促進と質の高いケアの提供が期待される

ロボット介護機器の開発・導入促進体制

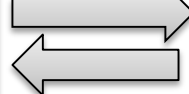
民間企業・研究機関等

機器の開発

○日本の高度な水準の工学技術を活用し、高齢者や介護現場の具体的なニーズを踏まえた機器の開発支援

【経産省中心】

・モニター調査の依頼等



・試作機器の評価等

介護現場

介護現場での実証等

○開発の早い段階から、現場のニーズの伝達や試作機器について介護現場での実証(モニター調査・評価)

【厚労省中心】

開発現場と介護現場との意見交換の場の提供等

ロボット技術の介護利用における重点分野(平成25年2月3日 経産省・厚労省改定)

○移乗介助



○排泄支援



○認知症の方の見守り



○移動支援



○入浴支援



福祉用具・介護ロボットの実用化支援 (厚生労働省)

1. 相談窓口の設置

- ・ 開発者側と使用者側双方からの相談受付



2. モニター環境の整備

- ・ モニター調査協力可能な施設等のDB化



3. モニター調査の支援協力

- ・ 現場との意見交換やモニター計画書の作成支援



4. 普及・啓発

- ・ 展示、研修、貸出などの実施



5. 高齢者ニーズの把握・実態調査

認知症ケア関連機器に関するモニター調査事例

コミュニケーション支援



特別養護老人ホーム 導入前後の比較

- ・コミュニケーションの変化
- ・運動機会の変化
- ・自発性の変化
- ・不穏行動の変化
- ・生活リズムの変化

(2013-1014)



病院退院時の「もの忘れ外来」で 認知症と診断された方 スクリーニング

- ・セラピー効果
- ・介護負担の変化

(2013)

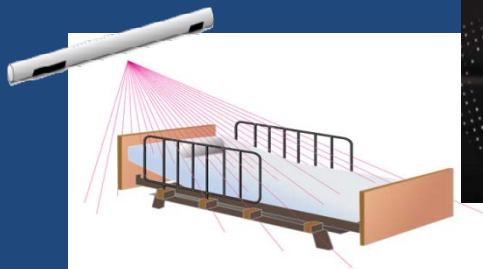


有料老人ホーム

入居している利用者とその家族を結び、当該機器を使用したコミュニケーションによって、どのような効果が期待できるか調査

(2014)

見守り支援



輝点のみ撮影



三次元に再構成

演算装置

安全

要確認

危険

判定



タブレット



危険を通知



特別養護老人ホーム・有料老人ホーム (2013-2014)

複数の入所者と同時に検知する機器

危険に繋がる可能性のある状態とパターンマッチングし異常検知・通知する

プライバシーを配慮しながら状態の確認、危険状態の防止、見守り回数の減少

その他のモニター調査事例



移乗支援機器



歩行訓練用のツール



追従型酸素機器搬送移動車両



トイレでの姿勢保持

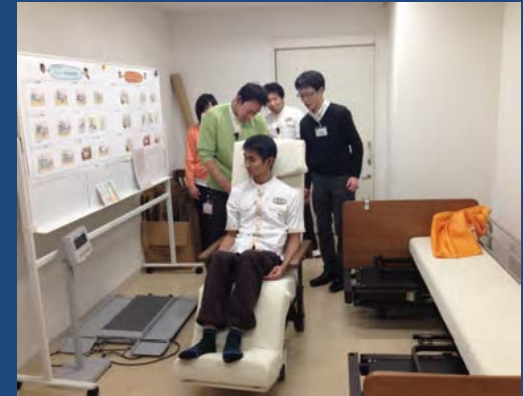
その他のモニター調査事例



上肢支持機能付き免荷型のリフト



補聴耳カバーシステム



離床アシストベッド



個人の体型に合った上肢運動機能補助装具



多機能車いす
施設での散髪や口腔ケア

腰部の負担軽減スーツ

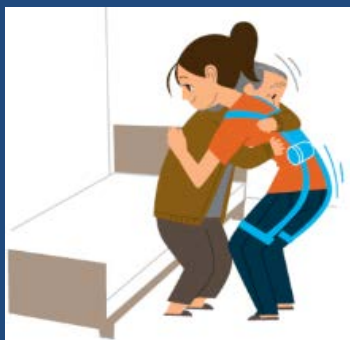


ロボット介護推進プロジェクト (経済産業省)

事業概要

ロボット介護機器の量産化への道筋をつけることを目的として、ロボット介護機器を実際に介護現場で活用しながら、大規模な効果検証等を行う。

さらに、検証結果に基づく効果のPR、普及啓発、教育活動を通じて、ロボット介護機器導入の土壌を醸成する。



移乗介助
装着



移乗介助
非装着



移動支援

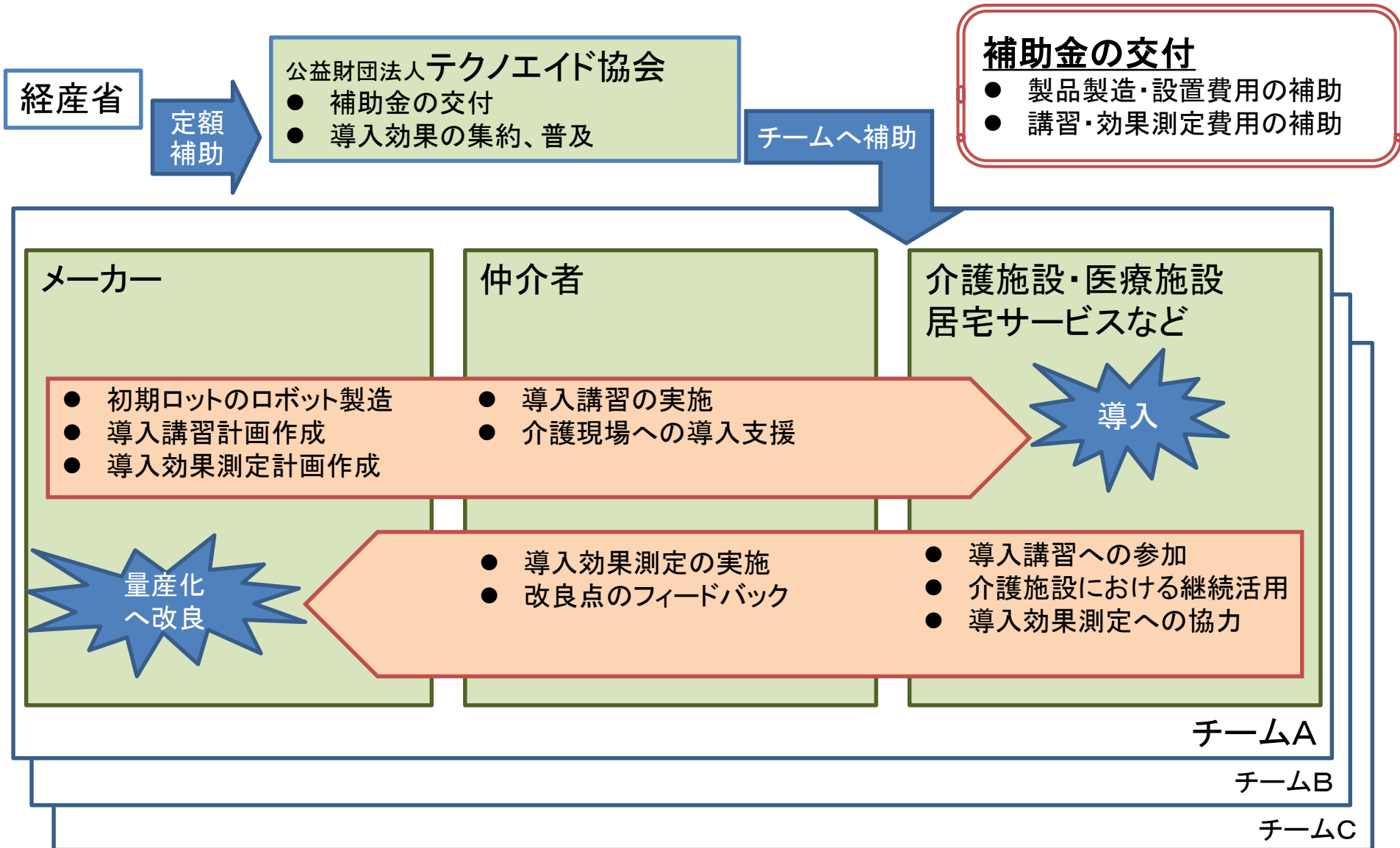


排泄支援



見守り

ロボット介護推進プロジェクト 事業スキーム



補助対象となるロボット介護機器一例

重点分野	件数
移乗介助（装着）	1
移乗介助（非装着）	6
移動支援	2
排泄支援	4
見守り支援	1 3
合 計	2 6



移乗介助（装着）



移乗介助（非装着）



移動支援



排泄支援



見守り支援



利用効果の検証

○性能評価

工学的試験

安全性

◎ユーザービリティ評価

使い勝手

実践を通じた製品の製品安全の確認

利用者のADLやQOLの維持・向上

介護負担の軽減

サービスの改善・効率性、経済性

自立支援、介護負担の軽減

○介護を受ける側への効果

- ・ 利用前後におけるADLやQOLの変化（維持・向上）
- ・ 機器利用の満足度、安心感、快適性、操作など理解のしやすさ
- ・ 心理的負担感の変化 など

○介護者する側への効果

- ・ 利用前後における腰痛等の発生頻度、精神的負担の変化、
- ・ 作業負担の軽減、見守り負担の軽減、新たな業務負担の有無 など

○機器の使い勝手による効果

- ・ 訓練時間、使用（装着）時間、準備や手間、メンテのしやすさ
- ・ 臨床場面での操作機能性・安全性、表示、禁忌事項 など

○介護サービスのプロセスに関する効果

- ・ 移乗介助の時間変化、排泄支援の時間変化、見守りの時間変化
- ・ 介護手法の変化、経済的变化、人員（配置）の変化 など

ご静聴ありがとうございました

公益財団法人テクノエイド協会 企画部 五島清国

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1

セントラルプラザ4階

電話 03-3266-6883

goshima@techno-aids.or.jp